

修験者コース 217人挑戦

出羽三山古道 初のトレラン



午前7時、口之宮湯殿山神社の山門前からリュックを背負ったランナーたちが一斉にスタートした=19日、西川町本道寺

出羽三山の参拝道として栄えた六十里越街道をたどる初めてのトレイルランニング大会が西川町―鶴岡市で19日に開かれた。県内外の「走り行者」が、ブナの原生林に覆われた古道を駆け抜けた。

トレイルランニングは登山道や旧道など自然の道を走るレース。個人の部(フル42⁺、ハーフ20⁺)や親子の部など5部門に、東北6県や首都圏などから10、70代の計217人が参加。はちまきに白装束の山伏風

の姿で走る人も。西川町本道寺の口之宮湯殿山神社から、湯殿山参籠所(鶴岡市田麦俣)や八幡神社(鶴岡市松根)を目指すコースは、約700⁺の高低差があり、こけむした石畳や石碑などの史跡が参加者たちの目を楽しませた。

山形市の施設職員、布施アイ子さん(68)は個人の部のハーフに参加。ゴールとなった湯殿山神社の大鳥居をくぐり、「沢を渡ったり、起伏の激しい山道を走ったり。かつて修験者たち

が走ったコースに挑戦できるとあって、他の大会よりもやりがいを感じた」と話した。

県内陸部から庄内へ通じる六十里越街道は、江戸時代には羽黒山、月山、湯殿山の三山を参拝する行者が多く行き交った。この街道などを構成文化財とする出羽三山が2016年に日本遺産に認定されたことを受け、県や地元の観光協会などでつくる推進協議会が主催した。

(西田理人)